

会 社 名 株式会社 神戸製鋼所  
 ( URL http://www.kobelco.co.jp )  
 代表者名 代表取締役社長 水越 浩士  
 (コード番号 5406 東証、大証、名証)  
 問合せ先 コミュニケーションセンター長 泉 博二  
 ( TEL 03-5739-6010 )

## 平成16年3月期 決算見通し並びに期末配当について

( 四半期業績の概況の開示 )

当社の第151期(平成16年3月期)の決算並びに期末配当につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。なお、これは、(株)東京証券取引所の定める適時開示規則に基づく四半期業績の概況の開示も兼ねて行なうものです。

### ( 1 ) 連結決算見通し

当期のわが国経済は、景気の牽引役である外需が引続き堅調に推移し、設備投資の回復傾向が続くなど、緩やかな改善の動きが見られたものの、個人消費の伸び悩みに加え、下半期以降は急激な円高の進行もあり、本格的な景気回復には至らない状況で推移しております。

このような状況の中、鉄鋼関連事業の下半期の国内需要については、造船、自動車、産業機械などの製造業向けを中心に、上半期に引続き底固い状況が続くものと見込まれます。また、輸出についても、中国市場の拡大や米国景気の回復による東アジア地域の旺盛な需要を背景に、ほぼ上半期並みの高水準となる見通しです。このような状況から、全国粗鋼生産については、1億1,000万トン台と前回見通しを上回る水準となる見込みです。

以上のような状況から、鉄鋼関連事業において鋼材販売数量の増加や販売価格の上昇が見込まれることに加えて、建設機械関連事業における国内需要の回復などもあり、当期の売上高は前回見通しに比べて200億円増収の12,200億円程度となる見通しであります。また、経常利益については、鉄鋼関連事業は、販売環境が堅調に推移するものの、原料価格の上昇による影響などから前回見通し並みとなる見込みですが、建設機械関連事業などの業績が改善することなどから、前回見通しに比べて30億円増益の460億円程度となる見通しであります。また、税引き後の当期純利益については、前回見通し並みの200億円程度となる見込みであります。

### 【連結決算見通し】

( 億円 )

	売 上 高	経 常 損 益	当 期 純 損 益
今 回 見 通 し	12,200	460	200
前 回 見 通 し ( 昨 年 11 月 20 日 )	12,000	430	200
( 参 考 ) 前 期 実 績	12,047	354	17

## ( 2 ) 単独決算見通し

当期の売上高は、前回見通しに比べて100億円増収の7,900億円程度となり、経常利益は前回見通し並みの230億円程度となる見通しであります。また、税引き後の当期純利益についても、前回見通し並みの150億円程度となる見込みであります。

### 【単独決算見通し】

(億円)

	売上高	経常損益	当期純損益
今回見通し	7,900	230	150
前回見通し(昨年11月20日)	7,800	230	150
(参考)前期実績	8,072	202	48

### 〔配当について〕

当期の期末配当については、本年度の業績見通し、内部留保の状況を勘案し、1株につき1.5円とする案を定時株主総会にお諮りする旨、本日開催の取締役会において決議いたしました。

以 上